

Risk Flash No.176(Vol.5 No.18)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
発行責任者：リスク研究センター長 久保英也

- 経済学の視点：ベトナム経済発展の新たなステージへ—技能労働者の育成……Page 1
- 論文紹介：ケインズとナイトと同時代人たち——「想定外」を想定する…… Page 2-3
- リスク研究センター通信……Page 3

経済学の視点

ベトナム経済発展の新たなステージへ—技能労働者の育成

やまだかずよ
経済学科教授 山田和代

ベトナム社会は国際経済への統合を深めるなかで、チャイナ・プラス・ワンとして海外資本の進出により製造業、建設業、サービス産業での労働需要を高めています。先に、滋賀大学リスク研究センターは、シンポジウム「「ドイモイ」の次の成長戦略は何か？—ベトナムの経済、雇用、直接投資を考える」（6月18日）を開催しました。シンポジウムでは、滋賀大学と共同研究を進めているハノイ国民経済大学から2名の研究者を招聘し、またJETRO海外調査部の専門家を迎えて、活発な議論を行いました。

現在、私は共同研究プロジェクトの一人として労働部門を担当しています。そこでは、ベトナム社会経済において、労働をめぐる「職業訓練」「技能養成」が大きな課題と捉え、その制度や実態について研究を進めています。

ベトナム政府の中小企業の育成が本格的になるのは、2000年代に入ってからです。2001年の中小企業支援政令、2006年の「中小企業開発5ヵ年計画」、2007年の「裾野産業マスタープラン」が策定されました。これらの政令・施策によって、国際競争に耐えられる新たな生産主体を育成強化し、民間セクターを国営企業に代わる成長部門として位置づけて中小企業を中心とした裾野産業の発展につなげようとしています。そのためには、また労働力の確保と育成という課題も重要です。2011年の「社会経済開発戦略」（2011年～2020年）は、目標に「2020年まで工業国化を達成する」と提唱し、裾野産業の育成が急がれています。この目標達成のための「3つの突破口」の1つが、「人的資源の開発」です。

技能労働者の育成とその影響は、第1次産業の就業者の割合が高いベトナムの労働市場に変化をもたらすばかりでなく、雇用機会の創出や、労働市場に存在する性別職務・職域分離、性別賃金格差などを解消する一つの手段にもなり得るとも考えられます。これまでのベトナムの経済発展が労働集約型産業の製品組立や加工業種に依存していることを考えると、技能労働者の育成の進展はそうした経済構造から離陸するための新たなステージに通じるといえるでしょう。

論文紹介

ケインズとナイトと同時代人たち——「想定外」を想定する

著者：滋賀大学名誉教授（リスク研究センター客員研究員）^{さかいやすひろ} 酒井泰弘
収録：『彦根論叢』第 400 号、2014 年夏号、82-105 ページ



概要：

本稿においては経済思想史の立場から、「想定外」を想定するとは一体どういうことなのかを深く掘り下げる。特に、20 世紀の経済学の巨人 J. M. ケインズ (1883-1946) と F. H. ナイト (1885-1972) の二人に焦点を当てることによって、蓋然性や不確実性が人間の経済活動にどう影響を与えるかを多角的に議論したい。その議論から、この二人が生きた時代、その状況と空気、および同時代人たちの思想などが鮮明に浮かび上がってくるだろう。なお、二人のほぼ同時代人としては、マーシャル (1842-1924)、ポアンカレ (1854-1912)、ウェーバー (1864-1920)、夏目漱石 (1867-1916)、寺田寅彦 (1878-1935)、アインシュタイン (1879-1955) などが挙げられる。

二人の巨人は同時代の大学者である。だが、生まれた国が違うし、生活環境や知的環境も相当に異なる。第一の巨人ケインズは、大英帝国の爛熟期にエリート家系の子息として誕生し、経済学の世界にいわゆる「ケインズ革命」を惹き起こした。だが、第二次世界大戦後はケインズの急死と並行して、世界の覇権はイギリスからアメリカへと移行した。その後、「反革命」の嵐が吹き荒れたために、ケインズの影響力は一時著しく低下した。しかし恐るべし、学問の天才は何度でも死に、何度でも復活するのだ。事実、2008 年のリーマン危機以降においては、「ケインズの復活」が声高に叫ばれている。

もう一人の巨人ナイトは、アメリカ中西部の田舎に生まれ、苦学力行のうで、遂には「シカゴの大長老」と言われるまでの存在に登り詰めた。コーンパイプを愛用し、批判力旺盛なナイトは、象牙の塔の中で生きた孤高の人であった。この点は、官界や実業界で活躍した「実務家」ケインズの華やかな生き方とは対照的である。ケインズはナイトの業績には無頓着であった反面、ナイトの方はケインズを相当に意識しており、しかも批判的に眺めることも少なくなかった。

注目すべきことに、ケインズとナイトの間には共通項が多いのだ。第一に、二人はその年齢が二歳しか違わない同時代人として、大西洋の東西において経済学の変革と発展に著しい貢献を行った。第二のより重要な共通項は、二人はともに蓋然性・不確実性・複雑性の問題に最大の興味を示したことである。第三に、二人が 21 世紀初頭の混迷の時代に見事な「復活劇」を示しつつあることだ。

要するに、ケインズとナイトは、いわば「想定外の経済学」なのである。二人の考え方の異同を比較研究することは、「想定外の事象」が頻発する現代において喫緊の課題であると信じている。

著者のつぶやき

私は今では残り少ない戦前の生まれ、しかも米軍による 35 回の大空襲を経験した「生き証人」である。大学時代には騒乱に近い「安保闘争」を生き抜き、友人との間で「ケインズかマルクスか」ないし「資本主義か社会主義か」について、口角泡を飛ばしたことをよく覚えている。この時には、マルクスの方がケインズより圧倒的に優勢であり、「資本主義の没落」を予言する人々も少なくなかった。

だが、歴史の進行は、当時の人々の予想通りには行かなかった。私の両親は「鬼畜米英」の掛け声の下で竹槍演習に励んだ世代であるが、敗戦後は人びとの価値観や行動様式が 180 度転換した。同じような歴史の大転換は、ベルリンの壁の崩壊 (1989 年) を通じても発生し、「没落したのはむしろ社会主義」という有様であった。

現段階において、「ケインズをとるか、マルクスをとるか」という問題は恐らく不毛に近いものであろう。それよりはむしろ、「ケインズとナイトとの比較から、何を学ぶべき

か」という設問のほうが遥かに有効である。原発と格差に悩める現代において、我々が心すべきことは、「想定外の事象」を分析する総合的・学際的社会科学の樹立であろう。「第二のケインズ、第三のナイト」の出現を衷心より期待する昨今である。

「一生青春、一生勉強」——これが私のモットーである。物理的年齢のことを暫く忘れて、勉強に勉強を重ねなければならないと決意している。

リスク研究センター通信

経済学部「株式投資研究会」が日経 TEST 学生団体対抗戦で全国 1 位に輝き、二連覇を達成

詳しくは、<http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=topics:1626&r=0> をご覧ください。

「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量が一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変して blog 等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

*当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

編集委員：ロバート・アスピノール、大村啓喬、菊池健太郎、
金秉基、久保英也、柴田淳郎、得田雅章、山田和代

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局（Office Hours:月一金 10:00-17:00）
〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp

Web page: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>